

こころの青少年 Vol.32

新しい時代に合った青少年育成活動

青少年育成甲府市民会議 会長 久保田直人



日頃より、みなさまには、青少年育成甲府市民会議の諸活動へのご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、現在、我が国は急速な少子・高齢化と核家族化に直面しています。これに伴い、地域住民のつながりは希薄化し、地域行事や青少年活動への参画意識も低下しています。青少年の健全育成活動も、担い手不足や関心の低下によって、存続さえ危ぶまれている状況にあります。このような背景をふまえ、今後の青少年活動のあるべき姿を考える必要があります。

まず、青少年育成は地域全体で取り組む社会的課題であるという共通認識を醸成する必要があります。地域住民一人ひとりが「自分も育成の一翼を担っている」という意識をもつことが大切です。そのためには、地域活動の成果や意義を「見える化」し地域住民に積極的に情報発信していく必要があります。地域の子どもたちが活動を通して成長している姿を共有することで、活動の意義を実感してもらいやすくなると考えます。

次に、従来の枠組みにとらわれない柔軟な育成活動の展開が求められます。子どもの数が減る中で、単独の地域による活動は限界があります。そこで複数の地域が連携し広域なネットワークを構築することで、活動の規模や内容を充実させることができます。また、地域内外の機関等の協力を得ることで、青少年に新たな刺激を与えることができます。

さらに、現代の子どもたちの多様な価値観や興味に対応するために、活動内容の多様化も重要です。スポーツや文化活動、ボランティアなど、様々な選択肢を用意することで、子どもたちの自主性や主体性を育むことができます。活動の中で子どもたち自身が役割をもち、地域に貢献する体験を積むことは、責任感や連帯感を育て、地域社会への帰属意識にもつながります。

また、保護者や地域住民の参画を促すためには「無理なく、気軽に関わられる仕組み」を整えることがカギとなります。現代の家庭は共稼ぎが一般的であり、時間的余裕がないケースが多いので、短時間で関与できる小規模かつ柔軟な関わり方を設計することが望まれます。

結びに、地域の未来を担うのは、今の青少年たちです。その育成に地域全体で取り組むことは、地域の持続可能性を高める上でも不可欠です。少子・高齢化や核家族化といった社会構造の変化に柔軟に対応しつつ、これまでの取組を大切にしながらも従来の発想にとらわれないことなく、多様な人々が多様な機会に多様な方法で連携し、共に「誰一人取り残さない」青少年育成活動を築いていきたいと願っています。